

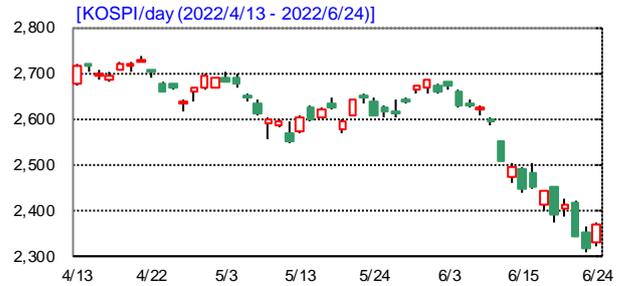


【韓国】 総合指数は週間で3.0%安と3週続落、今週も神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で3.0%安と3週続落。インフレの高進や利上げの加速で世界景気が後退するとの警戒感が強まり、相場の重しとなった。週明け20日は前週末比2.0%安と大幅に続落。終値で心理的節目の2400ポイントを下回り、昨年11月4日以来の安値を付けた。翌21日は機関投資家を中心に押し目買いが入って反発し、2400ポイントを回復したが、22-23日は大幅な続落。再び節目を割り、23日終値は昨年11月2日以来、約1年7カ月ぶり安値で引けた。売られ過ぎとの見方から買い戻す動きも広がったが、積極的な買いにつながる目新しい材料に欠ける中、勢いは限定的だった。米国の金融政策をにらんで今週も神経質な展開か。国内では29日に消費者信頼感指数、30日に景況感指数がそれぞれ発表される予定。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は7.6%高と大幅に4週続伸、今週も原油・為替相場が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は7.6%高と大幅に4週続伸。主力のノバテック、セヴェルスターリ、ズベルバンク・オブ・ロシアが2桁高となったほか、ルーブルの大幅高も指数を押し上げた。週明け20日のRTS指数は前週末比3.2%高。エネルギーのノバテックが11.7%高、金融のズベルバンク・オブ・ロシアが6.0%高となり、指数を押し上げた。その後は23日まで4日続伸し、24日に小幅に反落した。ルーブルが対米ドルで7年ぶりの高値をつけ、週間で5.7%高となったことも米ドル建てのRTS指数を後押ししている。個別では、ノバテックが14.5%、鉄鋼のセヴェルスターリが11.4%、ズベルバンク・オブ・ロシアが11.2%上昇した一方、産金のポリュスが8.9%、エネルギーのガスプロムが6.2%下落した。今週も原油・為替相場が焦点か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は週間で2.6%安と3週続落、今週は引き続き軟調な展開か

開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.6%安と3週続落。世界的な景気減速懸念を背景にリスク回避傾向が強まった。週明け20日のVN指数はリスクオフの流れが強まり、前週末比で3.0%の大幅安。その後、22日まで4日続落すると、23日は1.7%高と反発したものの、週末の24日は0.3%安と反落した。指数は22日に一時1162.06ポイントまで下落し、5月17日以来の安値をつけた。個別銘柄では食品加工のベトナム・デイリー・プロダクツが7.2%高、金融のベトインバンクが5.1%高と上昇した一方、公益のペトロベトナム電力総公社が15.8%安、エネルギーのペトロベトナム・ガスが14.9%安と急落した。また、パソコン・携帯電話販売のモバイル・ワールド・インベストメントが7.5%安となり、指数を押し下げた。今週は引き続き軟調か。

▼指数チャート





【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.5%高、中央銀行が 16 会合連続の政策金利据え置きを決定

ジャカルタ総合指数は週間で 1.5%高と 3 週ぶりに反発。じりじりと上値を広げた。週初の 20 日は引け際に買われて反発すると、21 日は終値で前日比 1.0%高と 3 営業日ぶりに 7000 ポイント台を回復。22 日はこの水準を挟んでもみ合った後、終値では反落したが、23 日は中央銀行の金融政策決定会合で、今年の経済成長率の見通しが 4.5-5.3%に据え置かれたことなどをを受けて買い戻された。政策金利は景気回復を支援するため、16 会合連続で 3.50%に据え置かれている。指数は 24 日まで続伸して引けた。今週は 1 日に 6 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の上昇率は 3 カ月連続で 3%台になる見通し。

▼指数チャート

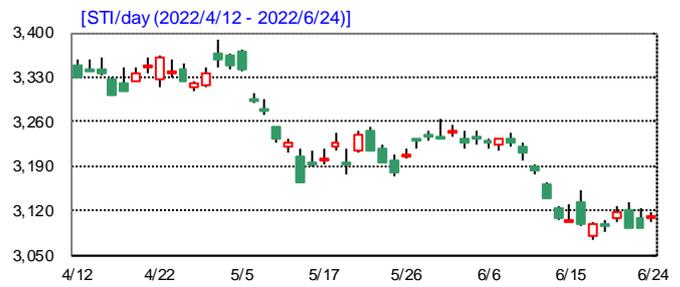


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.4%高、5 月の鉱工業生産は前年同月比 13.8%増

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.4%高と 3 週ぶりに反発。狭いレンジでの値動きが続いた。週初の 20 日は小幅反落したが、21 日はセムコップ・インダストリーズが指数上昇をけん引し、終値で 4 営業日ぶりに 3100 ポイント台を回復。一方、22 日はパウエル FRB 議長の議会証言を目前に控え、景気後退に対する警戒感が高まった影響で反落すると、23 日は前日の証言で積極的な金融引き締めを継続する方針が示されたことで小幅続落した。ただ、24 日は 5 月の鉱工業生産が前年同月比 13.8%増と市場予想から上振れた効果で買われ、3 日ぶりに反発して引けている。今週は外部要因が指数を左右する展開か。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.6%高、観光業支援プログラムの延長を好感

SET 指数は週間で 0.6%高と 3 週ぶりに反発。不安定な値動きが続いた。週初の 20 日は銀行株やエネルギー株が売られた一方、観光関連株が買われ、指数は前営業日からほぼ横ばい。21 日は政府が観光業への支援プログラムの延長を決めたことが好感されて、前日比 1.0%高と 5 営業日ぶりに反発した。ただ、勢いは続かず 22 日に反落すると、23 日は 5 月の貿易赤字額（通関ベース）が市場予想を上回った影響などで続落。24 日は前日の NY ダウが上昇した流れを引き継ぎ、反発して取引を終えた。今週は 29 日に 5 月の鉱工業生産が発表される予定。外部要因では OPEC プラスの閣僚級会合が焦点になりそうだ。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.4%安、20 年 5 月以来の安値更新

クアラルンプール総合指数は週間で 1.4%安と 5 週続落。週半ばまでは荒い値動きとなったが、後半は狭いレンジで推移した。週初の 20 日は、マレーシア産パーム油先物価格の急落が指数下落を主導し、前営業日比 1.1%安と続落。一方、21 日は引け際の買いが奏功し、1.2%高と 3 日ぶりに反発したが、22 日はインフレ加速と景気後退に対する警戒感を受けて終盤に売られ、前日比 1.8%安と反落した。23 日は前日からほぼ横ばいで 20 年 5 月以来の安値水準が続いたが、24 日は 3 日ぶりに反発して引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、中国の 6 月の製造業 PMI などの外部要因が意識されそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。